

(奨学金用) 研究業績書の作成方法

理工学部学生課

【作成上の注意点】

- 本研究業績書の作成日、課程、専攻、学年、学籍番号、氏名、指導教員氏名を記入してください。指導教員氏名は、大学に届け出ている指導教員の先生のお名前を記入してください。
- 1. ～8. の項目については下記の記入例に倣って記載してください。項目に記入することがない場合は「(1)なし」と記載してください。
- 研究業績(1. ～8.)の対象期間は「大学院入学日～提出日」です。ただし、学部在籍中に研究業績がある場合は、学部在籍中のものも記入してかまいません。
- 作成後、指導教員に内容の確認および押印をお願いしてください。
- 複数枚に亘っても構いません。
- オンライン開催の学会等に参加した場合は、オンライン参加である旨を明記してください。
- 本研究業績書の提出時に採択が決定していないものや、投稿中・投稿予定のものは記載できません。

1. 公刊学術論文（最近のものから順に (1)、(2)、(3)・・・と番号を付して記載）

（記入例）

(1) Keio, Taro; Hiyoshi, Jiro; Kimura, Saburo; Mori, Ichiro, Giant nonlinear phase shift at exciton resonance in ZnSe, Appl.Phys.Lett., Vol.60, No.2, pp.192-194, 2023 年 8 月 15 日掲載, <https://doi.org/10.1016/j.addma.2024.104090>, Impact Factor (2025): 3.841.

(ア)査読付論文で掲載済、掲載予定、掲載決定のものを記入

(イ)著者（全員、論文記述順）、論文題目、掲載論文誌名(巻・号・頁)に加えて、「○年×月△日掲載済(既に掲載されている場合)、○年×月△日掲載予定(掲載日が決定している場合)、○年×月△日掲載決定(掲載自体は決定しているが、掲載日は未定の場合)」のいずれかを記載する

(ウ)学術誌のインパクトファクターは Journal Citation Reports を調べ、「Impact Factor : ○○○」と記載。Journal Citation Reports に載っていない学術誌の場合は「Impact Factor : 不明」と記載する

2. 国際会議プロシーディング（ここに記載したものは、次の「3. 国際会議発表」には重複して記載しないこと、発表講演者にはアンダーラインを付すこと）

（記入例）

(1) Jiro Hiyoshi, Taro Keio, Hanako Suzuki, GUI design solution for a monocular, see-through head-mounted display based on users' eye movement characteristics, 15th International Conference on Human – Computer Interaction, pp.102-105, Detroit, USA, 2025 年 11 月 15 日発表済.

(ア) 著者（全員、論文記述順、発表者に下線を引くこと）、論文題目、発表会議名(主催学会名、略称のみの記載不可)、開催地(国)、開催年月日を明記。加えて、「○年×月△日発表済(既に発表している場合)、○年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、○年×月△日発表決定(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

3. 国際会議発表（上記「2. 国際会議プロシーディング」に記載していない国際会議での発表を記載すること、発表講演者にはアンダーラインを付すこと）

（記入例）

(1) Jiro Hiyoshi, Taro Keio, Hanako Suzuki, Giant Excitonic Optical Nonlinearity in ZnSe, 5th International Conference on II-VI Compound, Detroit, USA, 2025 年 11 月 15 日発表済.

(ア) 著者（全員、論文記述順、発表者に下線を引くこと）、論文題目、発表会議名(主催学会名、略称のみの記載不可)、開催地(国)、開催年月日を明記。加えて、「○年×月△日発表済(既に発表している場合)、○年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、○年×月△日発表決定

(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

4. 国内講演会発表（発表講演者にはアンダーラインを付すこと）

(記入例)

- (1) 矢上花子, 慶應太郎, 磁気利用センシングシステムの現状と将来展望, 第 51 回日本〇〇学会, 横浜パシフィコ, 横浜, 2025 年 9 月 15 日発表済.

(ア)発表者(下線を引くこと)・連名者、論文題目、発表会議名(主催学会名)・開催地、開催年月日を明記。それに加え、「〇年×月△日発表済(既に発表している場合)、〇年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、〇年×月△日発表決定(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

5. 特許（業績に番号を付すこと）

(記入例)

- (1) 矢上一郎 (50%), 慶應太郎 (30%), 鈴木花子 (20%), 並列分散制御におけるリアルタイム通信方式, 特願平 9-127876 号 (特開平 10-307803 号、特許番号 1234567 号), 2026 年 1 月 15 日出願.

(ア) 発明者全員(それぞれの貢献度%を記入すること)、名称、特許出願番号、公開(出願)年月日を記載。申請中の場合は申請番号を明記する。

6. 賞罰（教育研究活動に関するもののみ記入する。また賞罰に番号を付すこと）

(記入例)

- (1) 慶應太郎, 〇〇優秀発表賞, 日本〇〇学会, 磁気利用センシングシステムの現状と将来展望 (第 51 回日本〇〇学会), 2025 年 9 月 15 日受賞.

その説明: 約 100 名の講演者の中から 5 名が選出され、受賞される

- (2) 慶應太郎, 〇×専攻賞, 慶應義塾大学理工学研究科〇×専攻長矢上二郎, 手書き文字の個性特長

の定量化ならびにカラーデジタル画像の全自動画像改善法の開発, 2023 年 3 月 26 日受賞.

その説明: 候補者 20 名から 3 名が選出され、受賞される

(ア) 受賞者、名称、授与者(団体名)、受賞年月日を記載。受賞者が個人受賞の場合は個人名を、連名受賞の場合は全員の氏名を記載。また、必ず「その説明:」を上記例に倣って記入する。

7. 建築・設計の業績(設計・制作の業績はここに記入する。)

(記入例)

- (1) 慶應太郎, 慶應花子, 屋根のない家, 佳作入選, 第 40 回〇×工業建築設計競技, 〇×工業, 2025 年 1 月 15 日.

その説明: 応募作品数 540 件のうち入賞作品 11 点に選出され、最優秀賞・優秀賞に次ぐ佳作に選出され、□△展で展示された。

- (2) 慶應太郎, 慶應花子, 壁のない家, 住宅建築, Vo.92. No.10, pp.102-105, 2025 年 2 月 13 日掲載済.

(ア) コンペ等への入選の場合…設計者全員の氏名、作品名、入選(受賞)レベル、催し物名称、主催者(団体)名、年月日を記載。また、必ず「その説明:」を上記例に倣って記入する。

(イ) 定期刊行誌等への掲載の場合…設計者全員の氏名、作品名、掲載誌名(巻・号・頁)に加えて、「〇年×月△日掲載済(既に掲載されている場合)、〇年×月△日掲載予定(掲載日が決定している場合)、〇年×月△日掲載決定(掲載自体は決定しているが、掲載日は未定の場合)」のいずれかを記載する

8. その他の業績 [著書，データベースやソフトウェアなどの著作物（ただし上記 1.~7. に記したものは除く），KEIO TECHNO MALL，その他上記 1.~7.以外の教育研究活動に関する実績などはここに記載する。]

（記入例）

- (1) 慶應太郎，矢上花子，スポーツにおける大規模データの活用実演，高島屋横浜店(中高生サイエンスフェア会場)，中高生に向けて情報技術の内容を発表，2025 年 8 月 1 日発表.

(ア)著作、ソフトウェア、コンペ、展示会、その他の活動を記入

(イ)発表者（全員）、発表物の名称・内容、発表出版・発表場所、内容、発表年月日を記載する。